

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立南川副小学校			C：やや不十分である D：不十分である
1 前年度 評価結果の概要	・学力向上においては、依然として課題が残る結果であった。そのことから、佐賀県調査において県の水準に並び越えることを目標とし、校内研究での授業改善、朝の特設タイムの取組、放課後チャレンジスクールでの基礎学力の定着を徹底・継続することで、学力の向上を図る。 ・今年度は、特別支援学級在籍の児童が増えることから、児童一人一人の課題の改善と将来的な自立に向けて、自立活動の計画や個別の指導計画の作成等を行う。困り感を持った児童を早期に発見し、手立てを講じるためにも、特別支援教育についての保護者や地域の理解は必要不可欠である。			
2 学校教育目標	自分を磨く子どもの育成 ～ 自ら学び 心豊かに たくましく生きる南つ子 ～			
3 本年度の重点目標	・確かな学力を磨く (①主体的・対話的で深い学びへ ②指導力の向上 ③時代が求める課題への対応) ・豊かで多様な感性を磨く (①豊かな心と多面的考え方の育成 ②特別支援教育の充実 ③生徒指導・児童理解) ・健やかでたくましい心身を磨く (①健やかな体とたくましい心づくり ②安全・防災教育 ③特別活動)			

4 重点取組内容・成果指標			中間評価		5 最終評価				
(1)共通評価項目									
重点取組			中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・マイプランを共有し、研修会で見直し評価改善をして取組を促進させる。 ・「南川副小型授業」を共通理解し、改善チェックカードを活用し全職員で実践する。	B	・マイプランを意識して取り組むことができた職員の割合は75%だった。月1回の学力向上研修を通して、マイプランの進捗状況を確認し、成果指標を達成できるようにする。 ・「南川副小型授業」については、校内研修を通して意識して取り組むことができているが、改善チェックカードの利用に課題があるため、研究授業において、必ず指導案とともに印刷して配布するようになる。	A	・マイプラン達成のために努めていると回答した教職員が92%だった。今後はさらに内容を充実させる。PDCAサイクルを確立した取組を継続させる。 ・「南川副小型授業」をより理解し、実践に努めていると答えた教職員が100%だった。研究授業の際に改善チェックカードを配布したことで、全職員で内容の共通理解が深まってきた。	A	・マイプラン達成のための取組は、児童への指導として適切である。 ・授業を参観した際の板書や子どもたちのノートからも、「南川小型授業」が実践されていることが分かった。
	○校内研究の充実	○1年～3年は、CRT国語の結果を全国標準値以上にする。4年～6年は、佐賀県調査の国語において、結果を県の平均値以上にする。	・国語の授業を中心に「ことば集め」に取り組ませ、語彙力の向上を図る。 ・スピーチタイムの充実を図り、それをいかした授業改善に取り組む。 ・おすずめの本への関心を高める手立てを各学級で取り、読書習慣の定着を図る。	B	・それぞれの学年グループに応じた、光る言葉や語彙習得の手立てを実践している。 ・スピーチタイムは、計画していた6回のうち5回実施できた。今後は、スピーチタイムと授業とを関連させ、職員間で相互参観を行い、更に充実を図る。 ・年間100冊に向けて、各学級で目標を立てて取り組んでいる。2学期以降は、おすずめの本を担任が月1回、国語の時間を通して紹介しながら興味をもたせ、読書習慣につなげていく。	B	・授業で語彙集めをしたり、光る言葉として取り上げたりしたものは、各教室で掲示した。この掲示物をスピーチタイムや普段の授業で活用することができた。 ・スピーチタイムは、計画表をもとに9月から12月までに全学級のスピーチタイムを計7回相互参観した。参観後にふり返りの時間を確保することで共通理解ができ、3学期の実践につなげることができた。 ・年間図書貸出が、1月末の時点で一人当たり128冊であった。100冊を超えているが、学年の差は大きく(135冊)、全学年が100冊を超えるよう、授業に関連した本を紹介する取組を続け、読書習慣につなげたい。 ・学習状況調査やCRTでの結果が出ないため、今後も継続して取り組む。	B	・チャレンジスクールを通して、取組に対する教員の温度差を感じる。 ・チャレンジスクールに参加していない低位の子を、どうやって参加させるのが課題である。 ・研究を国語に特化する理由が、子どもたちの実態(課題)を考慮したものであればよい。
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや規律の尊重、善悪の判断などを身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートを実施し、(生命尊重、親切・思いやり、規律の尊重、善悪の判断等)肯定的な回答85%以上にする。	・道徳の授業づくりの研修やQUTESTの校内研修を実施する。 ・毎週木曜日を道徳教育の日として、人権教育や道徳の充実を図る。 ・ふれあい道徳での授業実践を家庭に発信し、連携を図る。	B	・講師を招いてQUTESTを生かす校内研を実施した。研修したことを共通理解し、2学期以降の学級経営に活かすようにする。 ・毎週、計画に沿って道徳の授業を行っている。引き続き児童の実態に応じた授業を行う。 ・ふれあい道徳の内容を事前に学級通信を通じて知らせ、今後も保護者との連携を図っていく。 ・児童会主体で「ぼかぼかの木」に取り組ませ、友達のおよ見つけを通して思いやり的心をはくむ。	A	・道徳アンケートの結果、道徳が好きな児童が84%、生命尊重100%親切・思いやり95%規律の尊重96%善悪の判断93%の児童が肯定的に回答し、目標を達成した。 ・単元計画に沿って道徳の授業をし、人権についての全校集会についても2回実施することができた。 ・今後は、ふれあい道徳だけでなく、日頃の授業での目的や内容についても、学級だよりなどを通じて保護者に伝えていく。 ・代表委員会の議題として、「ぼかぼかの木」を取り組ませたことで、友達のおよに目を向けられるようになった。	A	・毎週、全校で統一して時間に道徳の授業が行われているのはよい。 ・5年前の子どもたちの様子と比較すると、すっかり変わって明るく素直な子どもたちが増えた。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ問題には、必ず、管理職を交えた組織で対応し、今年度発生したいじめ問題は、未解決件数を0(ゼロ)にする。	・毎月1回「いじめ・いのちを考える日」にアンケートを実施し、6月、11月に教育相談週間を設ける。 ・いじめ問題への対応に関する研修会を開き、全職員の意識を高める。 ・連携会議等で事業についての共通理解を図り、組織で対応する。	A	・教育相談週間については、朝の時間を中心に、時間を確保して実施した。気になる児童については、2学期も注意深く見守っていく。 ・長期休業中に職員研修会を開いた。事例検討も行う意識を高めた。 ・全体指導が必要な事業を中心に共通理解をし、組織で対応した。今後も、「報告、連絡、相談」を大切に声を掛け合い指導していく。	A	・年間を通じて組織で対応することができた。今年度発生したいじめ事件(5件)は全て解消した。 ・いじめに対する職員の意識が高まったことで、早期発見、対応につながった。「報告、連絡、相談」、や、次年度への引き継ぎ方法を再度確認する。 ・連携会議の場だけでなく、地域の方(店舗や公共施設等)との連携も取り、事業を未然に防ぐための体制を充実させた。	A	・保健室の先生など、学校の職員全員で子どもたちを見ることが大切。 ・忙しいだろうが、子どもたちの声に耳を傾けることで、信頼を得ることができている。 ・地域との連携による実態の把握や指導は、適切である。
	○志を高める教育の実践	○学校評価の時期に児童アンケートを実施し、「夢や目標に向かってがんばっている」と肯定的な回答90%以上。	・道徳科や学級活動、総合的な学習の時間において、キャリアパスポートを活用する。 ・月末に学期のめあての達成について、振り返りをする。	B	・学期初めにキャリアパスポートを配布し、学期のめあてを毎月振り返るために「キャリア週間」を設け、学習したことをキャリアに関連付けて記録(ファイリング)する。 ・めあての達成状況を振り返ることが十分でなかったため、月末にめあての達成状況を確認し、振り返りを行う。	B	・2月をキャリアパスポート活用月間とし、キャリアパスポートの整理や道徳科、学級活動、総合的な学習の時間において取り組んだ内容についての記録をすることができた。 ・学期のめあてを振り返るために、毎月達成状況の確認を行ったが、呼びかけが十分でなかったため、振り返りを行うことができなかった。 【夢や目標に向かってがんばっている：A評価92.7%】	B	・伝記やビデオを活用して、偉人の生き方を感じさせる必要がある。 ・自分の歩みをファイルし、卒業まで蓄積してほしい。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	○授業以外で運動や外遊びなど体を動かす時間が、1週間で210分以上の児童生徒60%以上にする。	・学期に一度アンケートを実施し、児童の運動習慣についての実態を把握する。その上で、学級だよりや懇談会等で保護者にも周知を行い、児童の運動習慣について見直しを促す。	A	・台風による休校が2日あったにも関わらず、一週間で210分以上運動している児童が63.2%だった。定期的にアンケートを実施することで、児童の意識も変化してきたと考えられる。三学期もアンケートを継続的に行う。さらに委員会イベントを企画したり、教師の呼びかけを継続したりする事で、この運動習慣を継続していきたい。	A	・寒い時期ではあるが、児童の運動時間の達成状況は65.9%と目標を達成することが出来た。年間を通して定期的にアンケートを取ることで、運動習慣について意識する児童が増えてきたといえる。 ・アンケートから分かった実態を懇談会などで保護者と共有することで、家庭からと学校の両方からアプローチすることが出来た。来年度もアンケートを調査を継続して取り組むたい。	A	・子どもらしく、自然と体を動かしたり、遊んだりしているよう。運動しているといえる。 ・学校体育の在り方とも関係あり。
	○「望ましい生活習慣の形成」	○「早寝・早起き・朝ごはん」8時登校」ができる児童を90%にする。	・「生活振り返り週間」において重点取り組みの中に「早寝・早起き・朝ごはん」8時登校」を設定する。また、アンケート結果を学級だよりや懇談会で活用し、家庭との連携により、児童に望ましい生活習慣の形成を促す。	B	・朝ごはん、8時登校については、90%と目標を概ね達成できていた。しかし、早寝に関しては、34%であり、目標を大幅に下回った。 ・ホームページや学級通信、学級指導を通して、睡眠の重要性について周知を図っていく必要がある。	B	・朝ごはん、8時登校については、90%と目標を概ね達成できていた。しかし、早寝に関しては、中間評価よりも上がっているものでもできる児童が42%と目標を大幅に下回っている。 ・学級通信や学級指導を通して、保護者へ睡眠の重要性について周知を図ったが、家庭との連携に課題が残る。家庭で取り組んでいる。A評価 49.4%。	B	・早寝早起きや朝ご飯をきちんと食べることなどで、どのような効果があるのかを具体的に示して指導し、考えさせるべきである。 ・家庭の問題が大きく、改善することは本当に難しい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務等時間の上限(月45時間以内)を遵守する。	・職員が、出勤後にその日の帰宅時刻を設定し、計画的に業務に取り組む。 ・毎週金曜日の定時退勤日や学期末特別校時を設ける。	B	・毎週金曜日の定時退勤日の達成状況は62%(13/21)であった。見直しをもって業務が進められるよう、週案を早めに配布する。 ・時間外勤務時刻は、前年度の上期と比較すると一人平均3:30の短縮となった。退勤時刻の設定を継続する。	A	・毎週金曜日の定時退勤日の達成状況は48.8%(20/41)であった。2週分の週案を示すことで、見直しをもって準備ができている職員が増えた。 ・月ごとの時間外勤務時刻は、管理職を除いて一人当たり28:41で、上限の45時間を大きく下回った。退勤時刻を事前に設定する取組により、意識の変化は大いにみられるので、次年度も継続したい。	A	・年間を見通して、余裕を持った授業をしなければならぬ。そのために教材研究を効率よく行い、準備する必要がある。 ・きりがないのが、仕事終わりのラインを引く(目標設定する)ことは、効果的である。
	○教職員の負担感の軽減	○学校評価及びヒストレスチェックなどのアンケートで、「積極的な協力体制ができている」「働きやすい職場の雰囲気がある。」について肯定的な回答の割合を90%以上にする。	・3部会(生活、心づくり、体づくり)の中で協力体制を確立させる。 ・生活指導、教育相談に係る諸問題の解決に、チームで取り組み、負担感の軽減を図る。	A	・「心の健康チェック事業」において対象者16名が全員チェックを実施することができた。 ・月ごとの研修の3部会では、年間計画を示すことで、部長を中心に役割分担をしながら計画的に進めることができている。	A	・定期的に実施している3部会では、部長を中心に役割分担をし、スムーズな運営ができた。 【積極的な協力体制ができている：A評価 93%】 ・問題が生じた際、学級担任が抱え込まないよう、生徒指導や教育相談の担当と連携したり、管理職に相談したりする体制ができている。 【働きやすい職場の雰囲気がある：A評価 100%】	A	・子どもたちの様子は見えても、先生たちの様子は見る機会が少ない。 ・心身の健康を管理を大切にしてほしい。 ・職員間で教えてたり話したりすることが、負担軽減につながる。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育	○特別支援教育の更なる推進	○学校評価(保護者アンケート)で、特別支援教育の取組に対する保護者の理解度を85%以上にする。 ○講師を招聘し、支援を要する児童への指導、指導及び支援の在り方並びに環境づくり等について研修会を1回以上行う。	・入学式や学級懇談、月に1回発行する特別支援教育に関する通信等で保護者や地域への啓発を図る。 ・校内支援会議で、全職員の共通理解を図り、指導、支援を行う。 ・保護者や関係機関と連携しながら就学支援へとつなげていく。	A	・入学式やPTA総会、学級懇談会で保護者に特別支援教育について啓発できた。また、月1回の特別支援教育に関する通信も継続して発行している。 ・校内支援委員会にて、共通理解を図っている。「職員アンケート」を取り、9割の先生が、理解しているという回答を得た。 ・「ケース会」を行い、保護者と連携を取りながら、支援を行っているところである。	A	・保護者への啓発として、新たに毎月便りを発行したことで、わが子の困り感に気づき、学校へ相談があるなど、保護者アンケートでは、93%の保護者が特別支援教育について理解を示した。 ・校内支援会議や校内研修を行ったことで、本校職員の特別支援教育についての意識が向上し、指導、支援に生かされている。(共通理解したことを日々の実践に生かしている：A評価92.8%) ・保護者と「ケース会」をもちながら、入級や通級へつなげることができた。	A	・今後も保護者に向けていろいろな形で啓発をして、より理解を深めてほしい。 ・次年度は、支援学級が増えることから、まずまず地域の理解と協力が必要となるだろう。 ・先生の研修として、講師による講演会もよいのではないかと。
○教職員の資質向上	○教職員の資質向上	○服務規律違反を0(ゼロ)にする。 ○職員アンケートにおいて、「指導方法の改善に努めている」と回答した割合を90%以上にする。	・服務規律、教職員としてのマナー等について、講師を招聘し、研修会を行う。 ・月に1回「ゼロの日」の取組。 ・校内研究の充実を図る。	A	・夏休休業中に服務規律の保持について、講師を招いての研修会を実施し、交通安全を含めた服務規律違反0(ゼロ)を継続している。 ・校内研究において、指導案の検討等で講師に計4回の指導、助言を受けている。道徳では、指導主事による模範授業を全職員で参観し研修を深めた。	A	・「ゼロの日」の取組として、職員間で「キャリアの体」を共有するなど、交通安全や服務規律保持の意識を継続してもいいとでき、違反0(ゼロ)を達成することができた。 ・指導方法工夫改善担当(TT)との授業実践やスピーチタイムの相互参観、希望教科の授業参観等を実施し、指導力の向上につながるような「学ぶ場」を設けた。 【指導方法の改善に努めている：A評価 100%】	A	・職員一人一人が、ゆとりをもつことが大事である。

5 総合評価・ 次年度への展望	①学力向上 佐賀県調査において県の水準に並び越えることを目標とし、校内研究による授業改善を柱として、マイプランの充実と徹底、朝の特設タイムの充実、放課後チャレンジスクールでの基礎学力の定着を徹底・継続することで、学力の向上を図る。 ②特別支援教育の充実 次年度は、特別支援学級（自閉・情緒）が増えることから、児童一人一人の課題の改善と将来的な自立に向けて、自立活動の計画や個別の指導計画の作成等を行う。困り感を持った児童を早期に発見し、手立てを講じるためにも、特別支援教育についての保護者や地域の理解は必要不可欠である。よって、前年度同様、校内での取組や情報を計画的に発信して啓発を行う。 ③不登校児童への対応 長期にわたる不登校児童への対応を中心に、校内でのケース会議や必要に応じて関係機関と連携したチームでの対応を行う。また、にこにこアンケートや教育相談週間等を通して、未然防止にも努める。	
----------------------------	--	--